

「京都文化芸術プログラム 2020(仮称)」(案)

～千年の都に世界がふれる～

平成26年12月

京都文化芸術都市創生審議会・京都文化芸術プログラム 2020(仮称)策定会議

京都市



目次

1	プログラム策定に当たって	2
2	プログラムの位置付け	3
3	文化芸術立国中期プランとの関わり	3
4	プログラムの構成	4
5	プログラムの方針	5
6	プログラムを牽引する重要事業（11事業）	6
7	七つの視点と事業例	11
	(1) 育てる	11
	(2) 果たす	13
	(3) 知る	15
	(4) 守る	17
	(5) 活かす	19
	(6) 広める	21
	(7) 集う	23
8	2020年に向けてのスケジュール	25
9	推進方法	26
10	参考資料	27

1 プログラム策定に当たって

京都は、三方の山々や鴨川の流れなど山紫水明と称される自然と、世界遺産に登録される歴史的建造物や京町家など風情あるまちの佇まいが繊細な景観を織りなす美しいまちで、平安京遷都以来、千年以上にわたって都が置かれ、我が国の政治・文化・宗教の中心として栄えてきました。

悠久の歴史の中で、宮廷文化や仏教美術、武家文化と禅宗、町衆文化をはじめ、奥深い多様な文化芸術を高い美意識と精神性を持って幾重にも積み重ね、絶えず革新と創造を繰り返しながら、京都は今も、有形無形の文化芸術資産をしっかりと守り続けています。

先頃、世界で最も影響力を持つ旅行雑誌の一つ「トラベル・アンド・レジャー誌」において、世界で最も魅力的な観光都市の1位に京都市が選ばれました。これは、こうした京都の文化芸術資産はもちろん、市民の皆様のこよなく京都を愛する気持ちやおもてなしの心が高く評価された結果であると考えられます。

また、平成24年11月、京都市においてユネスコ世界遺産条約採択40周年記念会合が開催され、地域社会が文化遺産の保全と管理に積極的に関わり、遺産を活かすことで、社会全体が発展していくことの重要性をうたった「京都ビジョン」が採択され、京都市でも、「未来につなぐ世界遺産京都アピール」を宣言し、地域社会としての文化遺産への関わり方をアピールしました。

このように日本文化の真髄とも言える京都の文化芸術を大切に守り、育て、活かし、つないでいくために我々が今何をなすべきかが問われています。

折しも平成32年、東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定し、また、平成31年には「ラグビーワールドカップ2019」、平成33年には「関西ワールドマスターズゲームズ2021」などの世界的スポーツイベントが開催される予定です。オリンピックは、スポーツだけではなく文化の祭典でもあります。これら世界中から多くの人々が日本を訪れるイベントは、京都の文化芸術や奥深いまちの魅力を世界に発信するまたとない機会です。

今、京都は決意を新たにする時を迎えています。平成32年を目標に、京都の文化を担う次の世代を育成し、1200年を超えて京都が守り、引き継いできた文化を京都のまちづくりに活かすとともに、京都が持つ文化の魅力を世界に発信していくため、京都市が進めている「京都文化芸術都市創生計画」を補強するものとして、「京都文化芸術プログラム2020（仮称）」を策定します。

本プログラムの実施に当たっては、文化芸術の創造の担い手や所有者、受け手である鑑賞者など京都の文化芸術に携わる幅広い方々、そして、公益財団法人京都市芸術文化協会や公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所をはじめとする関係団体の皆様を最良のパートナーとして、市民の皆様とともに京都全体で取り組んでいきます。

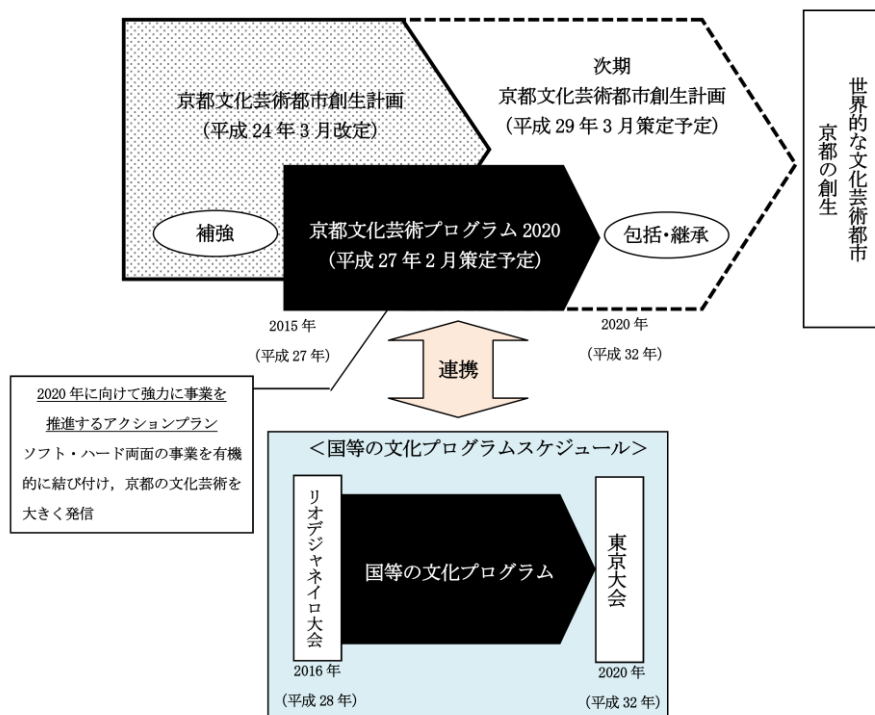
平成32年に向けて、京都のまちをより魅力に満ちた文化芸術都市として創生することを一層加速するとともに、そこで得られた成果を未来へ継承し、京都はもとより世界中の人々に夢と希望を与え、世界の平和と人類の幸せにつなげることで「文化首都・京都」の責務を果たしていくことを心から願ってやみません。

2 プログラムの位置付け

本プログラムは、東京オリンピック・パラリンピック等の開催決定を契機として強力に推進すべき具体的な事業を取りまとめたものであり、「京都文化芸術都市創生計画^(※)」(以下、「創生計画」という。)を補強するものです。

また、平成29年3月には次の創生計画の策定を予定しており、次期創生計画は本プログラムを包括し、継承するものとして策定します。

本プログラムに掲げた事業については、市民の皆様とともに、京都府や関西広域連合をはじめ、国、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会、東京都等と連携しながら推進します(詳細は26頁「推進方法」を参照)。



(※) 京都文化芸術都市創生計画

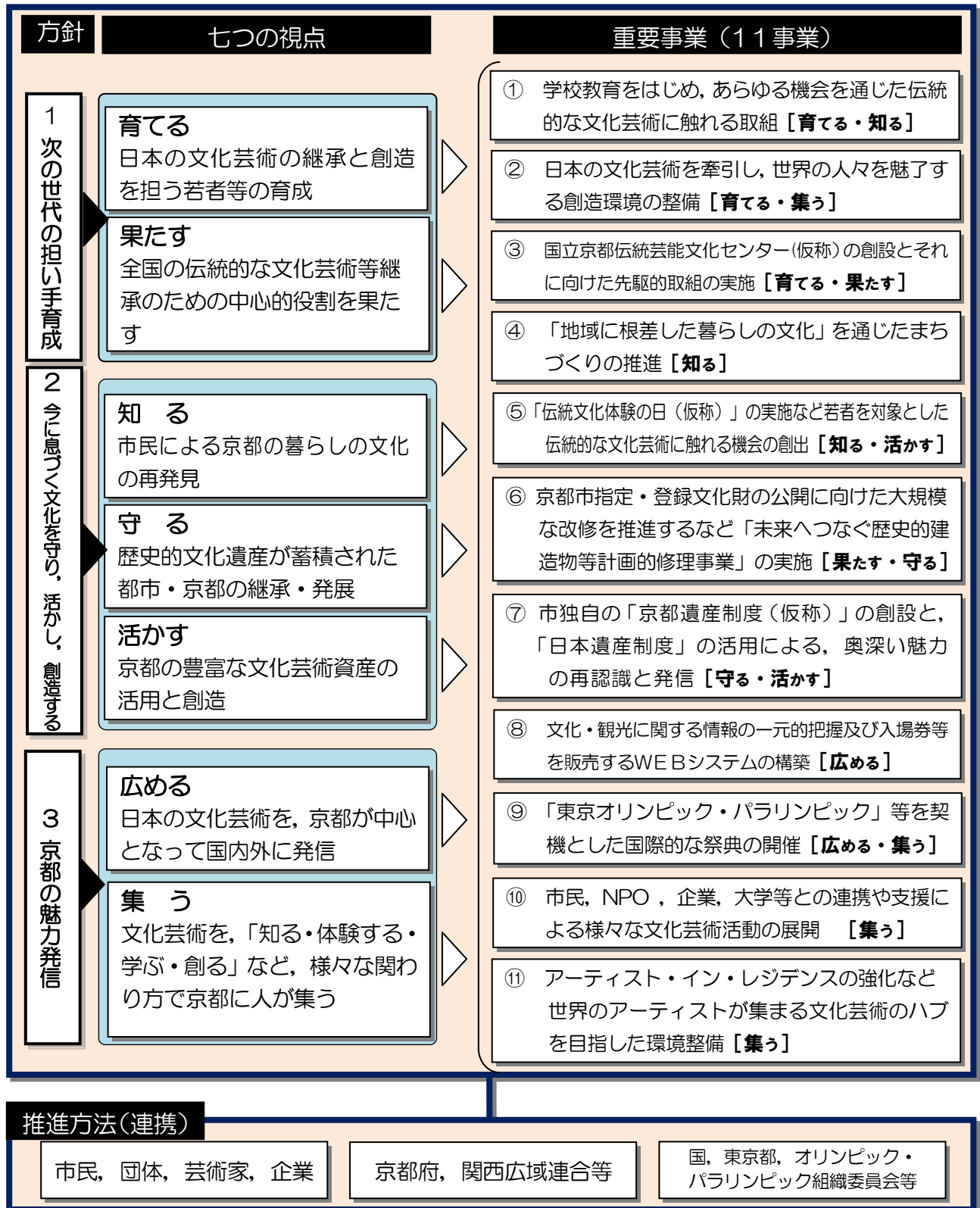
京都のまちをより一層魅力に満ちた文化芸術都市として創生することを目指し、これを総合的かつ計画的に進めるための具体的指針として、京都市が京都文化芸術都市創生条例に基づき、平成19年に策定(計画期間は平成19年3月～平成29年3月の10年間)。計画期間の中間年度を迎えた平成24年3月に計画の改定版を策定。

3 文化芸術立国中期プランとの関わり

平成26年3月、平成32年(2020年)に日本が『世界の文化交流のハブ』となることを目標に掲げ、三つの柱(「人を作る」、「地域を元気にする」、「世界の文化交流のハブとなる」)に基づく「文化芸術立国中期プラン」が文部科学大臣の私案としてまとめられました。

平成32年(2020年)までの期間を国力である文化力の強化期間として、日本各地の文化力の顕在化、基盤の計画的強化を行い、平成32年(2020年)に向けて、世界に誇る日本各地の文化力を活かした取組を、全国の自治体や、多くの芸術家等関係者とともに、日本全国津々浦々で進めることとしています。このようなプランを踏まえて本プログラムでは、日本文化の真髄である京都の文化芸術を国内外に発信するための具体的方法を取りまとめ、日本が世界の文化交流のハブとなるために京都が大きな一翼を担うことを目指していきます。

4 プログラムの構成



世界的な文化芸術都市・京都の創生

5 プログラムの方針

本プログラムでは、文化芸術が観光、産業、教育、地域等のあらゆる分野と融合しながら、以下に示す三つの方針の下、平成 32 年（2020 年）に向けて、創生計画に掲げる“文化芸術によるまちづくり”を一層進めていきます。



【方針 1】 次の世代の担い手育成（→育てる，果たす）

市民一人一人が、京都の、そして日本の歴史と伝統的な文化芸術についてきちんと語れるようになるためには自らが「ほんもの」を体験することが重要です。「ほんもの」を知ることは、将来、広い視野で世界を見る力を養うとともに、価値が分かる「目利き」となり、本当の意味で京都の文化を支える人々が育つきっかけとなります。

1200 年の時を超えて洗練されてきた京都の文化芸術が、これからも絶え間なく続いていくよう、「ほんもの」を体験する機会を提供することにより将来の文化芸術の「担い手」である子どもたちを育成します。

また、京都がこれからも日本の心の故郷であり続けるために、我が国固有の文化芸術の拠点としての中心的役割を果たし、芸術家や文化芸術を支える専門家等への支援を行っていきます。

【方針 2】 今に息付く文化を守り，活かし，創造する（→知る，守る，活かす）

京都には、ユネスコの世界遺産や無形文化遺産をはじめとする、有形無形の文化遺産が数多く集積しています。寺院や神社をはじめ、茶道、華道、能、狂言、邦楽、さらには京都祇園祭の山鉾行事、和食など数多くの有形無形の遺産は、京都なくしては成り立たない日本の宝です。さらに京都の文化遺産には、その存在と魅力が十分に伝わっていないものや、維持、継承が危ぶまれているものも少なくはありません。

1200 年の時を超えて守り、引き継いできた日本の宝と言える京都の有形無形の文化遺産は、京都に暮らす「人」によって支えられてきました。地域の人々の、脈々と続く日々の営みが、京都の文化を守り、磨き、伝える力になっています。市民一人一人がこの京都の価値を再発見するとともに、日本の宝を守り、地域や観光、産業など京都のまちづくりに活かし、新たな価値を創造していきます。

【方針 3】 京都の魅力発信（→広める，集う）

東京オリンピック・パラリンピックをはじめとした世界的なスポーツイベントの開催は、日本文化の真髄である京都の文化芸術を国内外に発信するまたとない機会です。

この機会を捉えて、現代のグローバルな環境に合った情報の伝え方を編み出すことも「文化首都・京都」の責務です。

京都が持つ文化の魅力を世界に伝えるために、海外からの来訪者にも分かりやすい案内の仕組みを整備することによって、観光客に対して効果的な魅力発信を行うとともに、文化芸術を学び、作り、演じる側の環境を整え、国内外の学生も、将来にはばたく若手芸術家も、世界中で活躍するアーティストも、京都の魅力に惹きつけられて、京都に集い、その交流を通じて京都の文化が世界中に広まっていく、そんなまちを目指します。

6 プログラムを牽引する重要事業（11事業）

プログラムの三つの方針を推進するために、平成32年（2020年）に向けて取り組む主な事業の中から、プログラムを牽引し、優先的に実施すべき事業を「重要事業（11事業）」として掲げます。

【育てる・知る】

① 学校教育をはじめ、あらゆる機会を通じた伝統的な文化芸術に触れる取組

（事業内容）

子どもたちが優れた文化芸術の「ほんもの」の魅力に触れる機会をつくることによって、文化芸術に親しむきっかけを生み、豊かな感性や人間性を育むとともに、伝統的な文化芸術をはじめとする京都の文化芸術を、自分の言葉で、国内外の方に伝えられるようにすることを目指します。平成32年（2020年）に青年期に達する学生を対象として、一流の演者やアーティストが魅せる技能の鑑賞や、京都だからこそ実現できる歴史的にゆかりのある場所での鑑賞、文化財を修理する現場や発掘調査の体験など、「ほんもの」を体験する機会を創出し、京都の文化芸術を学ぶことにより、文化芸術の次世代の「担い手」、「支え手」を育てることにもつなげます。

（主な取組）

- ・ 京都市内の小中学校等への芸術家の派遣による、文化芸術に関わる講話や実技指導、ワークショップ等の実施
- ・ 京都市内の小中学校に伝統産業職人を派遣し、生徒が匠の技に触れる、制作体験・実演教室の実施
- ・ 「ほんもの」の魅力が伝わる場所（能楽堂、神社等）での公演に触れる機会の創出
- ・ 子どもたちが継続的に伝統的な文化芸術を学ぶ各種芸術教室の体験教室としての活用
- ・ 「歴史都市・京都から学ぶジュニア京都検定」の実施
- ・ 「中学生による『京都・観光文化検定試験』チャレンジ事業」の実施
- ・ 市立高等学校における特色ある文化体験活動の推進

【育てる・集う】

② 日本の文化芸術を牽引し、世界の人々を魅了する創造環境の整備

（事業内容）

ロームシアター京都の再整備をはじめ、京都市美術館の再整備や京都市立芸術大学の移転整備など未来の文化芸術活動を担う人材の育成や、文化芸術活動を軸とした人の交流、文化のまちの賑わいの創出、世界への日本の文化芸術の発信など、世界の人々を魅了する創造環境の整備を推進します。

（主な取組）

- ・ ロームシアター京都の再整備
- ・ 京都市美術館の再整備
- ・ 京都市立芸術大学の移転整備

③ 国立京都伝統芸能文化センター(仮称)の創設とそれに向けた先駆的取組の実施

(事業内容)

伝統芸能文化を未来へと継承していくために、国立機関としての「国立京都伝統芸能文化センター(仮称)」の創設を目指します。そのセンターが持つべき機能を先行的に実現する事業として、国内外に日本の伝統的な文化芸術を強力に発信するための取組、演者や楽器・用具用品の制作者の育成、伝統的な文化芸術における事業の企画立案等を行なうコーディネーターの育成、そして、伝統芸能を支える鑑賞者の裾野を広げていくための取組を推進します。

また、東京オリンピック・パラリンピックまでの4年間を中心に国内外からの観光客の観賞機会ともなる舞台を創出します。

(主な取組)

- ・ 伝統的な文化芸術の裾野を広げるワークショップの拡充等
- ・ 京都における伝統的な文化芸術の集積を活かした舞台公演の実施等
- ・ 伝統芸能の公演等とタイアップした楽器、用具用品に関する相談、販売会の実施
- ・ 社会人や通訳、外国人等を対象とした伝統的な文化芸術を理解するための講座の実施やメディアの活用

【知る】

④ 「地域に根差した暮らしの文化」を通じたまちづくりの推進

(事業内容)

京都市では、東京オリンピック・パラリンピック等の開催決定を契機として、区民提案により実施する京都市の支援事業等の中から「文化芸術による地域のまちづくり事業」を認定し、認定を示すロゴマーク(文化芸術マーク[※])を掲示する取組を平成26年度から開始しました。

ロゴマークの活用により、各区における取組の情報を集約し、地域に根差した暮らしの文化の魅力を再発見するとともに、平成32年(2020年)に向けて、市民や、国内外への観光客に紹介し、市民が主体となったまちづくりを進めていきます。

(主な取組)

- ・ 「京都おもてなし百科(仮称)」の作成
- ・ 地域における暮らしの文化を通じたまちづくりや、おもてなしの取組などについて話し合う場の創設

(※) 文化芸術マーク趣意

コンセプトは「時の融合ー悠久の京都ー」。京の字で時計の針をシンボリックに表現し、周りの円で文字盤と時を刻み続ける世界を形取っています。京都で昔から使われている伝統色(柿渋茶/山吹色/松葉色/紺/京紫/桜色/朱色)で彩り、京都の伝統と現代アートの融合で生まれる新しい時間を表現しています。



⑤ 「伝統文化体験の日（仮称）」の実施など若者を対象とした伝統的な文化芸術に触れる機会の創出

（事業内容）

次代を担う若者等が集い、京都の文化芸術について理解し、世界に発信することができるよう、大学生をはじめとする若者が伝統的な文化芸術に触れ、体験できる取組を進めます。また「伝統産業の日」とも連携しながら、伝統産業の活性化に資することを目指します。

（主な取組）

- ・ 大学生などの若者を対象とした、茶道、華道など伝統的な文化芸術の体験ができる事業の実施
- ・ 茶会の開催等の伝統文化の催しを通じた伝統産業の活性化に資する取組の実施

【果たす・守る】

⑥ 京都市指定・登録文化財の公開に向けた大規模な改修を推進するなど「未来へつなぐ歴史的建造物等計画的修理事業」の実施

（事業内容）

平成26年度から平成31年度（プログラム策定から東京オリンピック・パラリンピックの開催前年）までの6年間で、京都市指定・登録文化財の公開に向けた修理補助を行います。大規模な修理事業において所有者負担を軽減することにより、修理事業を促進するとともに、東京オリンピック・パラリンピック期間を中心に一般公開し、歴史文化都市としての京都の都市格の向上を図ります。

【守る・活かす】

⑦ 市独自の「京都遺産制度（仮称）」の創設と、「日本遺産制度」の活用による奥深い魅力の再認識と発信

（事業内容）

京都市では、「京都を彩る建物や庭園制度」や“京都をつなぐ無形文化遺産”制度という独自の制度を創設し、京都のあらゆる文化遺産を維持、継承、活用するための先駆的な取組を進めてきました。こうした取組の成果を踏まえ、有形無形の文化遺産を、個々に評価するのではなく、テーマやストーリーを持った文化財群として抽出し、奥深い文化遺産を立体的に再認識、再評価する「京都遺産制度（仮称）」を創設します。国が創設を予定している「日本遺産制度」との連携も視野にいれます。選定に際しては、専門家だけでなく、市民から広く意見を募ることで、文化遺産を守ろうとする機運の盛り上げや市民によるおもてなしにもつなげていきます。

⑧ 文化・観光に関する情報の一元的把握及び入場券等を販売するWEBシステムの構築

(事業内容)

京都における文化芸術の情報は観光情報との連携により一層効果的に発信することができます。文化芸術情報サイトにおける海外向けページのコンテンツを充実するとともに、文化芸術情報、観光情報の相互にアクセスすることができるなど、国内外からの観光客に、より手軽に分かりやすく、より質の高い文化芸術情報を提供します。利用者にとって必要な情報をまとめる仕組みを構築するとともに、オンライン上でのチケット決済システム導入の検討を進めていきます。

(主な取組)

- ・ 文化芸術イベントのチケット情報など、文化芸術に関する情報の提供
- ・ 文化芸術情報サイトと観光情報サイトとの強力な連携

⑨ 「東京オリンピック・パラリンピック」等を契機とした国際的な祭典の開催

(事業内容)

2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、国等が策定を進めている「文化プログラム」とも連携し、文化芸術、産業、観光分野による国際的なフェスティバルや大きな節目を迎える時期に周年記念事業を展開します。また、平成32年(2020年)には、市民をはじめ、国内外の観光客、学生、将来を担う若手芸術家、世界中で活躍するアーティストなど人種を超え世界中の人々が京都に集い、伝統文化から現代芸術まで京都が持つ文化力を世界に発信し、体感できる祭典を開催します。

(主な取組：2020年までに段階的に実施)

- ・ PARASOPHIA：京都国際現代芸術祭 2015 (2015年)、琳派400年記念祭 (2015年)
- ・ 京都市考古資料館建物開館100周年記念事業 (2015年)
- ・ ロームシアター京都オープニング記念事業 (2016年)
- ・ 伊藤若冲生誕300周年記念祭 (2016年)
- ・ 京都市交響楽団創立60周年記念事業 (2015年・2016年)
- ・ 東アジア文化都市2017京都の開催 (2017年)
- ・ 大政奉還150周年記念プロジェクト (2017年)
- ・ オール京都で進める京都文化の祭典(仮称) (2020年)
- ・ 京都市の文化力発信事業 (2020年) ※



国等の「文化プログラム」
(2017年～2020年)

(※) 京都市の文化力発信事業のイメージ

- 伝統的な文化芸術のイベント(能、狂言、邦楽、茶道、華道など)
- 多彩なジャンルの文化イベント(舞踊、演劇、音楽、美術、食など)
- 国際フェスティバル(PARASOPHIA：京都国際現代芸術祭2015、京都国際舞台芸術祭、京都国際マンガ・アニメフェアなど)の開催
- 祇園祭などの京都の伝統行事と連携した取組
- 京都市交響楽団と連携したイベント
- 京都ミュージアムズ・フォー(京都国立近代美術館、京都国立博物館、京都市美術館、京都府京都文化博物館の4館が展開する連携事業)と連携したイベント
- 市民の暮らしに根差した文化の発信や大学生、留学生と連携したイベント
- 京都芸術センター開設20周年記念事業 など

⑩ 市民、NPO、企業、大学等との連携や支援による様々な文化芸術活動の展開

(事業内容)

文化芸術は、長い歴史の中で、市民の主体的で自由な活動により培われてきました。今後、東京オリンピック・パラリンピック等の開催決定を契機として、平成32年(2020年)に向け、市民、NPO、企業、大学等による活発な文化芸術活動の展開が期待されます。こうした活動を効果的に広めていくため、行政と関係機関が連携して文化芸術の振興に取り組んでいきます。

(主な取組)

- ・ 市民、企業等の民間団体と連携した文化芸術イベントの開催
- ・ 京都で開催される文化芸術の事業を京都全体で一体的に発信するため、京都文化芸術コア・ネットワーク*を基盤とした「アートエキシビジョン・京都*」の実施
- ・ 京都市考古資料館での大学等と連携した合同企画展の実施

(※) 京都文化芸術コア・ネットワーク

平成25年7月に京都市が設立した文化団体、NPO、大学、行政等の人のつながりを中核としたアートマネージャー、研究者、学芸員、評論家など文化芸術を支える専門家のネットワーク。

(※) アートエキシビジョン・京都

京都文化芸術コア・ネットワークのメンバーが中心となって、京都の文化芸術に関する様々な事業を一体的に発信するプロジェクト。

⑪ アーティスト・イン・レジデンス*の強化など世界のアーティストが集まる文化芸術のハブを目指した環境整備
--

(事業内容)

世界的な観光都市であり、文化芸術都市でもある京都が、世界中のアーティストをつなぐ窓口としての役割を果たすため、文化庁と連携し、京都芸術センターにおいて全国のアーティスト・イン・レジデンス*の活動拠点となるための取組を実施します。平成32年(2020年)を迎える時、世界中からアーティストが京都に集結するための環境の整備を進めていきます。

(主な取組)

- ・ 文化庁文化芸術創造都市振興室(関西分室)*との連携による各地のアーティスト・イン・レジデンスのネットワークの構築
- ・ 市内アーティスト・イン・レジデンスの連携によるフェスティバルの開催

(※) アーティスト・イン・レジデンス

アーティスト・イン・レジデンスは、芸術家や芸術分野の研究者等が、一定期間滞在しながら創作活動や交流を行うプログラム。異なる文化に触れることで新しい芸術表現を生み出そうとする新進又は若手のアーティストや芸術分野の研究者等の滞在創作活動を支援している。

(※) 文化庁文化芸術創造都市振興室(関西分室)

文化の力で関西地区から日本を元気にする「関西元気文化圏」で構築してきたネットワークや、これまでの関西地区における伝統文化からメディア芸術に至る幅広い文化芸術活動及びアーティスト・イン・レジデンス活動などの国際文化交流を推進しつつ、西日本を中心とする全国各地域の文化芸術創造都市づくりの支援を行っている。

7 七つの視点と事業例

重要事業をはじめとした平成32年（2020年）に向けて取り組むべき事業を、三つの方針に基づき、七つの視点（「育てる」、「果たす」、「知る」、「守る」、「活かす」、「広める」、「集う」）で展開していきます。

文化芸術・産業・観光・教育・学術

(1) 育てる 日本の文化芸術の継承と創造を担う若者等の育成

伝統的な文化芸術に親しむ人々の減少や新たな文化芸術の創出、文化財保存修理に関わる後継者不足等の課題を解決するため、日本の文化芸術の継承、発展を担う若者等を育成します。

具体的には、学校教育を通じて子どもたちが文化芸術の「ほんもの」の魅力に触れ、親子で一緒に体験できる機会等を増やすとともに、大学生が京都の文化芸術について学ぶことができるプログラムの充実や芸術系大学・関係機関と連携した文化芸術事業の推進など、文化芸術の裾野を広げ、次の世代へと継承するための取組を進めていきます。

また、専門家や市民がそれぞれの立場で文化財を守り、引き継いでいくための支援策を進めます。

ア 取組イメージ



- 学校教育をはじめ、あらゆる機会を通じた伝統文化・伝統芸能に触れる取組
- 日本の文化芸術を牽引し、世界の人々を魅了する創造環境の整備
- 国立京都伝統芸能文化センター（仮称）の創設とそれに向けた先駆的取組の実施
 - ・ 京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センターと連携した取組
 - ・ 「ようこそ アーティスト文化芸術とくべつ授業」の拡充
 - ・ 「みやこ子ども土曜塾」など親子で一緒に文化芸術を体験できるプログラムの実施
 - ・ 京都美術工芸大学をはじめとした工芸の教育研究機関と連携した伝統文化の継承と創造を担う人材の育成
 - ・ 現代アートや現代音楽をはじめとする新たな文化芸術への理解を深め、楽しむためのレクチャー、ワークショップの開催
 - ・ 日本料理に学ぶ食育カリキュラム推進事業をはじめとする京都ならではの食育の推進
 - ・ 京都市考古資料館等における京都の歴史に親しめる講座や、親子で歴史を学ぶ教室の開催等の充実
 - ・ 京都市文化財建造物保存技術研修センター等を活用した文化財保存技術の継承の取組
 - ・ みやこ文化財愛護委員や文化財マネージャーの育成と活躍の場の創出
 - ・ 伝統的な文化芸術等を説明できる専門性の高い通訳ガイドの育成
 - ・ 「大学教育充実のための戦略的大学連携プログラム」の実施など、大学と連携した京都の文化芸術、文化遺産を支える人材育成の推進
 - ・ 芸術系大学と連携した「京都芸術教育コンソーシアム」による京都ならではの芸術教育の推進と、芸術を大切にする風土づくり

(2) 果たす 全国の伝統的な文化芸術等継承のための中心的役割を果たす

千年を超える悠久の歴史の中で育まれてきた京都の優れた文化芸術は、日本の文化芸術の真髄とも言えます。日本における伝統的な文化芸術の継承、発展の拠点として、人材の育成、資料・資源の保全、継承、研究の推進、更には情報の集積、発信まで、その中心的役割を果たします。

具体的には、国立京都伝統芸能文化センター（仮称）創設の働きかけや、伝統的な文化芸術の継承を担う具体的な機能の充実を図るとともに、文化庁文化芸術創造都市振興室（関西分室）の機能拡充等の取組を通じて、日本の伝統的な文化芸術の魅力を発信する中心的な役割を果たしていきます。

ア 取組イメージ



月イチ☆古典芸能シリーズ「三味線ってなに？」
用具用品のレクチャー

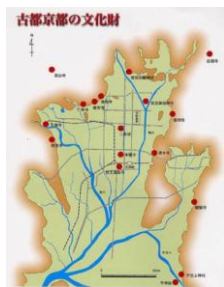


継ぐこと・伝えること

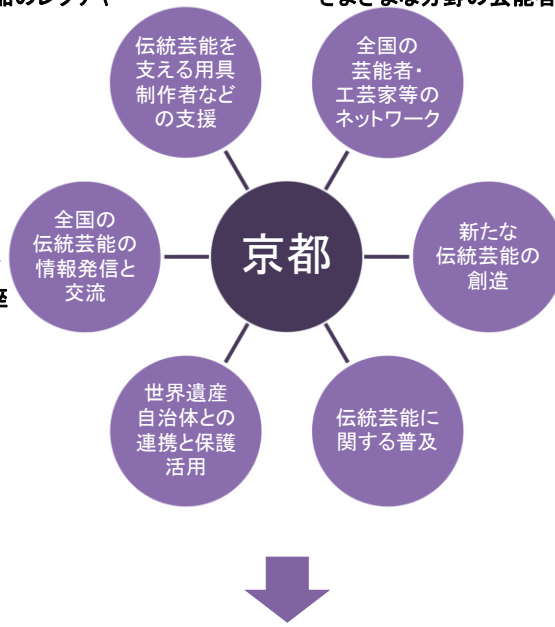
さまざまな分野の芸能者との交流によるネットワーク



トラディショナル・シアター・トレーニング
海外の人も参加できる伝統芸能集中講座



世界文化遺産「古都京都の文化財」
「世界文化遺産」地域連携会議の会長都市



伝統芸能みくらべ公演
従来の枠に捉われない新たな
伝統芸能公演



月イチ☆古典芸能シリーズ「顔見世を知る」
古典芸能を味わう力を身につける講座

伝統的な文化芸術を継承する
中心地としての役割を**果たす**

イ 事業例

○：推進事業のうちプログラムを牽引する重要事業

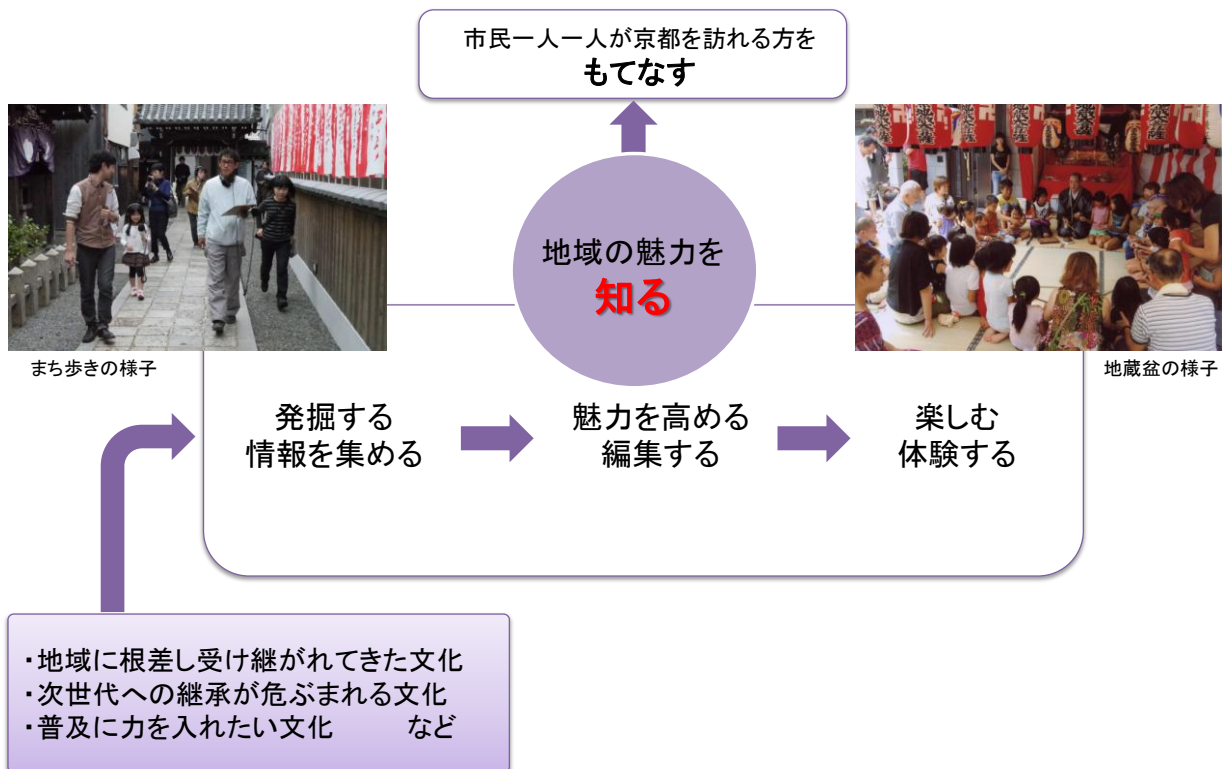
- 国立京都伝統芸能文化センター(仮称) の創設とそれに向けた先駆的取組の実施(再掲)
- 京都市指定・登録文化財の公開に向けた大規模な改修を推進するなど「未来へつなぐ歴史的建造物等計画的修理事業」の実施
 - ・ 文化庁文化芸術創造都市振興室(関西分室) の機能拡充に向けた支援
 - ・ 「世界文化遺産」地域連携会議の会長都市として、国内の世界遺産所有自治体との連携と保護・活用を牽引する取組
 - ・ 2014 世界遺産サミットで採択された「京都宣言」に基づく、世界遺産の持続可能な保全と活用に向けた取組の推進

(3) 知る 市民による京都の暮らしの文化の再発見

京都市民が永きにわたって受け継いできた、暮らしの中に息づく四季折々の習慣、風習、それらを体現する衣食住の様々な資源を見つめ直し、その魅力を再発見できるようにしていきます。

具体的には、子どもから大人まで、市民が京都の歴史や暮らしの文化に触れ、再発見する機会を地域と連携しながら創出することで、市民自らが京都の良さ、自分の住む地域の良さを知り、国内外から京都を訪れる方達のための市内全域での「おもてなし」へとつなげます。

ア 取組イメージ



イ 事業例

○：推進事業のうちプログラムを牽引する重要事業

- 学校教育をはじめ、あらゆる機会を通じた伝統的な文化芸術に触れる取組（再掲）
- 「地域に根差した暮らしの文化」を通じたまちづくりの推進
- 「伝統文化体験の日（仮称）」の実施など若者を対象とした伝統的な文化芸術に触れる機会の創出
 - ・ 東山 アーティスツ・プレイスメント・サービス（HAPS）*の取組を通じた、地域住民と芸術家による地域に根差した文化の魅力の発信
 - ・ “京都をつなぐ無形文化遺産”に選定した「京の食文化」、「京・花街の文化」、「京の地蔵盆」等の継承，普及啓発
 - ・ 「京都・和食文化推進会議（仮称）」を京都府等と連携して設立し，オール京都で和食文化を推進
 - ・ 「京都を彩る建物や庭園制度」による歴史的資産の維持・継承と活用
 - ・ 子どもから大人まで，市民が京都の歴史や文化に触れ，京都の魅力を経験できる機会の創出と発信（市民の京都再発見事業）

(※) 東山アーティスト・プレイスメント・サービス（HAPS：ハップス）

芸術家に適した空き家の紹介や，閉校施設等の活用による制作場所の提供，専門家のネットワークによる発表活動の支援など，芸術家が京都に根差した活動を行えるよう支援するために，京都市が平成 23 年 9 月に設立した実行委員会。

(4) 守る 歴史的文化遺産が蓄積された都市・京都の継承・発展

京都には文化財指定・登録されたものだけでなく、有形無形の多様な歴史的文化遺産があります。これらの遺産を把握し、適切に保存、活用し、未来へ継承することで、「歴史文化都市」としての京都の役割を果たすとともに都市格の向上を図ります。

具体的には、市独自の「京都遺産制度（仮称）」の創設や、歴史的建造物等の大規模改修事業の推進、地域に息づく祭や伝統行事の継承支援、景観形成上重要な建造物等の修景助成など、幅広い文化遺産を対象にした、きめ細やかな支援等を行い、歴史文化都市にふさわしい文化資源を立体的に構築し、文化遺産を守り、その魅力を発信し、未来につなげていきます。

ア 取組イメージ



- 京都市指定・登録文化財の公開に向けた大規模な改修を推進するなど「未来へつなぐ歴史的建造物等計画的修理事業」の実施（再掲）
- 市独自の「京都遺産制度（仮称）」の創設と、「日本遺産制度」の活用による、奥深い魅力の再認識と発信
 - ・ 京都府等と連携した未指定文化財や文化的環境の維持のための文化特区制度創設の検討
 - ・ 世界遺産・元離宮二条城，旧三井家下鴨別邸，岩倉具視幽棲旧宅，無鄰菴，天皇の杜古墳，深泥池をはじめとした市内文化財の更なる保存修理・活用
 - ・ “京都をつなぐ無形文化遺産” に選定した「京の食文化」，「京・花街の文化」，「京の地藏盆」等の継承，普及啓発（再掲）
 - ・ 「京都・和食文化推進会議（仮称）」を京都府等と連携して設立し，オール京都で和食文化を推進（再掲）
 - ・ 「京都を彩る建物や庭園制度」による歴史的資産の維持・継承と活用（再掲）
 - ・ 祇園祭，京都五山送り火などそれぞれの地域に息づく祭や伝統行事の継承支援
 - ・ 「京都岡崎」，「京都北山杉の林業景観」をはじめ市内各地域の重要文化的景観への選定に向けた取組の実施
 - ・ 景観上重要な地区及び個別建造物の指定と外観修景等への助成を通じた歴史的な町並み景観の保存・再生
 - ・ 「歴史的景観の保全に関する検証事業」により，世界遺産をはじめとする京都の景観上重要な寺社や近代建築等とその周辺の総点検を行い，景観を保全するために必要な措置を具体化
 - ・ 建築基準法適用除外規定を活用した「京都市歴史的建築物の保存及び活用に関する条例」による，京町家等の歴史的建築物の保存・活用
 - ・ 無電柱化の推進による都市災害の防止と歴史的景観の向上

(5) 活かす 京都の豊富な文化芸術資産の活用と創造

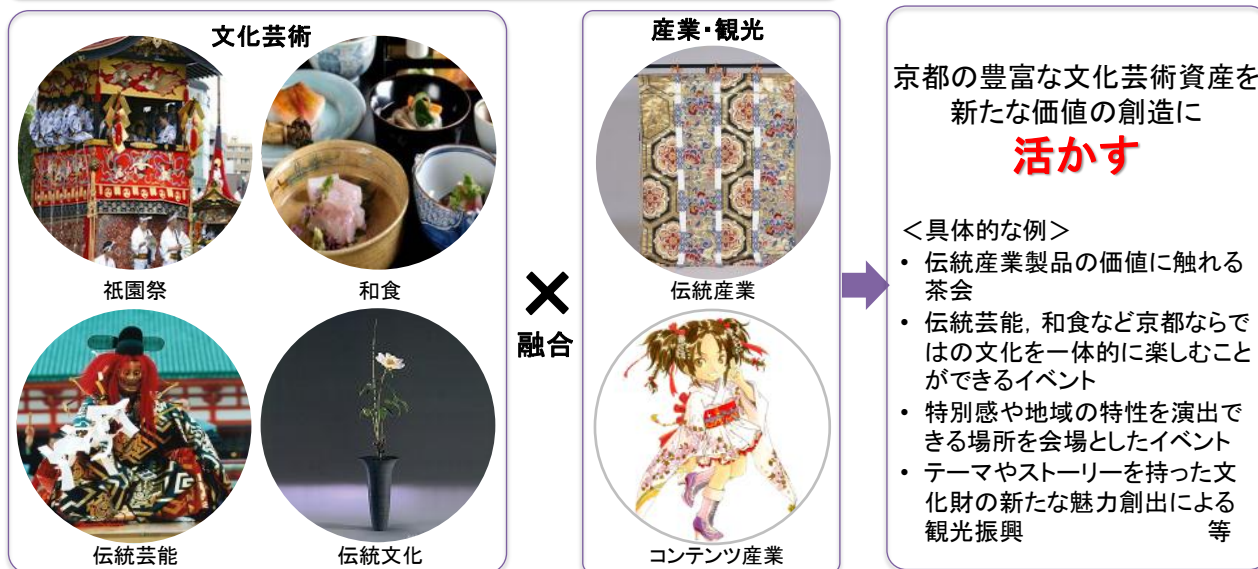
京都の持つ豊富な文化芸術の力を新たな産業創出の有力な資産となるよう、文化芸術と産業、観光との連携を促進し、新たな価値の創造に活かします。

具体的には伝統産業に馴染む機会の創出やマンガ・アニメなどコンテンツ産業の振興、文化遺産をいかした観光振興など、様々な場面で京都の文化芸術と産業、観光を結び付けるための取組を進めていきます。

ア 取組イメージ

日本の宝である京都の豊富な文化芸術資産

- ・歴史的建造物, 庭園
- ・古都京都の文化財(ユネスコ世界文化遺産)
- ・祇園祭の山鉾行事, 和食(ユネスコ無形文化遺産)
- ・暮らしの文化(地蔵盆など)
- ・能楽, 狂言, 京舞などの伝統芸能
- ・茶道, 華道などの伝統文化
- ・染織工芸などの伝統産業
- ・マンガ, アニメなどのコンテンツ産業



© 藤島康介/クロノギアクリエイティブ

イ 事業例

○：推進事業のうちプログラムを牽引する重要事業

- 「伝統文化体験の日（仮称）」の実施など若者を対象とした伝統的な文化芸術に触れる機会の創出（再掲）
- 市独自の「京都遺産制度（仮称）」の創設と、「日本遺産制度」の活用による、奥深い魅力の再認識と発信（再掲）
 - ・ 世界遺産・元離宮二条城，旧三井家下鴨別邸，岩倉具視幽棲旧宅，無鄰菴，天皇の杜古墳，深泥池をはじめとした市内文化財の更なる保存修理・活用（再掲）
 - ・ “京都をつなぐ無形文化遺産”に選定した「京の食文化」，「京・花街の文化」，「京の地藏盆」等の継承，普及啓発（再掲）
 - ・ 「京都を彩る建物や庭園制度」による歴史的資産の維持・継承と活用（再掲）
 - ・ 「京都岡崎」，「京都北山杉の林業景観」をはじめ市内各地域の重要文化的景観への選定に向けた取組の実施（再掲）
 - ・ 歴史に磨かれた技術・技法・豊かな感性と熟練した技能の継承と，人材の育成を図る取組
 - ・ 京都美術工芸大学をはじめとした工芸の教育研究機関と連携した伝統文化の継承と創造を担う人材の育成（再掲）
 - ・ 首都圏，海外での販路開拓事業など伝統文化とそれを支える伝統産業活性化の取組の推進
 - ・ 伝統文化・伝統芸能の公演等とタイアップした楽器・用具用品の相談，販売会の実施
 - ・ 「伝統産業の日」を中心とした伝統産業を取り入れた和のある暮らしの提案や和装の発信拠点の整備
 - ・ 京都国際マンガミュージアムや京都国際マンガ・アニメフェア等との連携によるクールジャパンの発信

(6) 広める 日本の文化芸術を、京都が中心となって国内外に発信

東京オリンピック・パラリンピック等をはじめとした大規模な国際的イベントの開催は、国内外から多くの観光客が訪れることが期待できる、京都の文化芸術を発信するためのまたとない機会です。

具体的には、新たな京都市観光振興計画の取組と融合して、文化芸術に関する魅力的なコンテンツを次々と提供するとともに、その情報を届け、訪問者の利便性を高める先進的な仕組みを整え、日本の文化芸術を、京都が中心となって国内外に発信します。

ア 取組イメージ



イ 事業例

○：推進事業のうちプログラムを牽引する重要事業

- 文化・観光に関する情報の一元的把握及び入場券等を販売するWEBシステムの構築
- 「東京オリンピック・パラリンピック」等を契機とした国際的な祭典の開催
 - ・ 京都の文化芸術や伝統産業製品の情報発信機能を有する海外情報拠点の設置
 - ・ 大規模なスポーツイベントと連携した文化芸術を発信する取組
 - ・ 文化施設における館内サイン，展示解説の多言語化対応等京都を訪れる外国人の受入環境整備
 - ・ 姉妹都市やパートナーシティー交流，国際団体の会合などの機会をとらえた京都の文化芸術の海外発信
 - ・ 京都館での文化力発信の強化

(7) 集う 文化芸術を、「知る・体験する・学ぶ・創る」など、様々な関わり方で京都に人が集う

文化芸術を知り、体験したい人にとって、魅力的な機会を創出するとともに、文化芸術を学びたい人、文化芸術を創作したい人にとって、京都が魅力的な滞在先となるよう、京都に人が集うために必要な環境を整えます。

具体的には、アーティスト・イン・レジデンスの強化など世界のアーティストが集まる環境整備を進めるとともに、市民、NPO、企業、大学等とも連携しながら、障害のある方をはじめ様々な人が文化芸術活動を行い、表現し、鑑賞できる場所、機会の継続的な整備を行っていきます。

ア 取組イメージ



(※) インバウンド

日本国外から入ってくる旅行者。

- 日本の文化芸術を牽引し、世界の人々を魅了する創造環境の整備（再掲）
- 「東京オリンピック・パラリンピック」等を契機とした国際的な祭典の開催（再掲）
- 市民、NPO、企業、大学等による様々な文化芸術活動との連携及び支援
- アーティスト・イン・レジデンスの強化など世界のアーティストが集まる文化芸術のハブを目指した環境整備
 - ・ 京都・高度人材交流拠点（仮称）の設置に向けた取組の推進
 - ・ NPO 法人「天才アートミュージアム」と連携のもと、障害のある方に芸術創作表現活動の場を提供し、芸術作品の制作活動を支援する取組
 - ・ 「京都とっておきの芸術祭」など京都府等と連携した芸術祭の開催や社会参加の促進を図る取組など、障害のある方の創造性あふれる芸術活動への支援
 - ・ 東山 アーティスト・プレイスメント・サービス（HAPS）や京都版トキワ荘事業の取組など、空き家等を活用したアーティストや漫画家などが京都に集うための環境整備の推進
 - ・ 国際博物館会議（ICOM）の誘致や「世界遺産・元離宮二条城」を活用した MICE 戦略の推進
 - ・ 京都市立芸術大学による未来を担う人材の育成と新たな地域魅力創造
 - ・ ロームシアター京都、京都市美術館や京都市動物園等の再整備など岡崎一帯の文化交流施設の更なる魅力の向上
 - ・ 「KYOTO 駅ナカアートプロジェクト」の実施など地下鉄駅をはじめとする公共施設を活用した、子どもから大人までの市民が芸術作品を発表する機会の創出

8 2020年に向けてのスケジュール

京都市では平成32年（2020年）までに PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015, 琳派400年記念祭, ロームシアター京都再整備, 伊藤若冲生誕300年記念祭, 世界考古学会議（WAC-8）, 東アジア文化都市2017京都の開催, 京都市美術館再整備, 国際博物館会議（ICOM）の誘致, 京都芸術センター開設20周年事業など, 京都を舞台にした大きな事業の実施や, 京都市の核となる文化施設の整備が控えています。

これらのソフト事業とハード事業が両輪となり, 段階的に進め, 有機的に結び付けていくことで, 平成32年（2020年）に向けての機運を高め, 京都の文化芸術を大きく発信していきます。

そして, 東京オリンピック・パラリンピックを開催する平成32年（2020年）には, 京都府, 京都商工会議所等によるオール京都体制で, 国等の文化プログラムや東京都とも連携し, 京都の文化力を発信するイベント等を開催していきます。

平成32年（2020年）に向けての取組を, 一過性のものとして終わらせず未来に残す遺産として後世へ継ぐことができるよう, プログラムを着実に推進していきます。

2020年まで段階的に実施



東京オリンピック・パラリンピック
における文化プログラム期間
(リオデジャネイロ・オリンピック終了後)



国等の文化プログラムとも連携

9 推進方法

1 推進体制

(1) 市民、団体（NPO等）、芸術家、大学、企業等との連携

プログラムの推進に当たっては、文化芸術によるまちづくりの担い手である「市民、団体（NPO等）」、文化芸術を主体的に継承、創造、発信する「芸術家」、文化芸術のよき理解者・支援者である「大学、企業等」、そして行政がそれぞれ協働し、平成32年（2020年）に向けて京都の多様な文化芸術の力を一層強化することを目指します。

(2) 京都府、関西広域連合等との連携

平成32年（2020年）の東京オリンピック・パラリンピック等に合わせて開催する「京都文化の祭典（仮称）」の実施に向けて、京都市と京都府、京都商工会議所が協働するなど、オール京都体制で取り組んでいきます。京都が先駆けとなって、日本文化の真髄や日本人の深い精神性を世界に向けて発信し、誰もが気軽に楽しめる文化の祭典となるよう、内外の多くの方々の賛同と取組を呼び掛けていきます。

また、平成22年度に設立された関西広域連合（関西7府県、京都市を含む4政令市が加盟）では、平成32年（2020年）に向けて関西文化の内外への発信を強化し、関西文化を一体となって振興するために、「はなやか関西・文化戦略会議」を設置しました。

こうした取組を通じて、東京オリンピック・パラリンピック等を契機とした文化の発信が関西全体から効果的にできるよう、更なる連携交流を図ってまいります。

(3) 国、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会、東京都等との連携

プログラムの実施に当たり、全国各地における文化プログラムの実施を支援する「文化庁」、文化庁の関西拠点である「文化庁文化芸術創造都市振興室（関西分室）」、文化プログラムを策定する「東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会」、そして、オリンピック・パラリンピックのメイン会場となる「東京都」と連携することにより、「京都文化芸術プログラム2020」を通じた京都の魅力を発信する取組を、国内外の多くの方々に知ってもらえるよう努めてまいります。

(4) 他分野の本市計画との連携等

新たな京都市観光振興計画との融合をはじめ、プログラムの推進に向けて、庁内の連携体制の強化に努めます。

なお、文化芸術施策の推進に関してこれまで大きな役割を担ってきた公益財団法人京都市芸術文化協会や公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所、公益財団法人京都市文化観光資源保護財団、明日の京都文化遺産プラットフォーム、「世界文化遺産」地域連携会議、京都市内博物館施設連絡協議会等と、効果的な連携を図ります。

2 プログラムの取組の評価・点検等

プログラムの推進状況については、創生計画の進捗状況と併せて毎年度取りまとめ、「京都文化芸術都市創生審議会」に報告して評価、点検を受けるとともに、京都市ホームページに掲載するなど広く公表します。また、市民フォーラムや各種講座の開催など、様々な機会を設けて、多くの市民に周知し、意見を聴く工夫をしながら、取組の点検を行います。

10 参考資料

○京都文化芸術都市創生審議会 委員名簿

	氏名	役職等
会長	池坊 由紀	華道家元池坊次期家元
副会長	潮江 宏三	京都市美術館館長
委員	井上 八千代	京舞井上流家元
委員	猪木 武徳	一般財団法人国際日本文化研究交流財団理事長
委員	岡田 暁生	京都大学人文科学研究所教授
委員	河瀬 直美	映画監督
委員	河内 秀則	NHK京都放送局局長
委員	佐野 真由子	国際日本文化研究センター准教授
委員	鈴木 晶子	京都市教育委員
委員	建畠 哲	京都市立芸術大学学長
委員	富永 茂樹	京都大学人文科学研究所教授，京都芸術センター館長
委員	永澄 憲史	京都新聞社編集本部編集局文化部長
委員	畑 正高	株式会社松栄堂代表取締役
委員	早川 一子	市民公募委員
委員	平井 誠一	京都文化祭典連絡協議会座長，株式会社西利代表取締役
委員	真下 仁志	市民公募委員
委員	増田 寿幸	一般社団法人京都経済同友会代表幹事
委員	森田 りえ子	日本画家
委員	山本 淳子	京都学園大学教授
委員	藤田 裕之	京都市副市長

※平成26年11月1日現在

○京都文化芸術都市創生審議会・京都文化芸術プログラム2020 策定会議 委員名簿

	氏名	役職等
委員長	建畠 哲	京都市立芸術大学学長
副委員長	富永 茂樹	京都大学人文科学研究所教授，京都芸術センター館長
委員	千 宗屋	武者小路千家十五代家元後嗣
委員	高橋 拓児	木乃婦三代目
委員	寺内 里香	学校運営協議会委員（京都市立伏見板橋小学校及び伏見中学校）
委員	濱崎 加奈子	専修大学准教授，有斐斎弘道館代表理事
委員	宗田 好史	京都府立大学教授

※平成26年11月1日現在

○プログラム策定までの経過（予定）

年月	事項	備考
平成 26 年 6 月	京都文化芸術都市創生審議会	プログラムの策定を諮問
7 月	第 1 回 京都文化芸術プログラム 2020 策定会議	趣旨説明
8 月	第 2 回 京都文化芸術プログラム 2020 策定会議	プログラムの方針等を検討
	市民参加ワークショップ「京都文化芸術会議 2020」※	
9 月	第 3 回 京都文化芸術プログラム 2020 策定会議	プログラムの事業案等を検討
10 月	第 4 回 京都文化芸術プログラム 2020 策定会議	プログラムの答申素案を検討
12 月	プログラム素案（策定会議案）を公表	
	プログラム素案（策定会議案）に関する市民意見の募集	
平成 27 年 1 月以降	京都文化芸術プログラム 2020 策定会議に市民意見募集後のプログラム素案を報告	
	京都文化芸術都市創生審議会	プログラムの答申素案を審議
	京都文化芸術都市創生審議会から答申	
	京都文化芸術プログラム 2020 策定	

(※) 市民参加ワークショップ「京都文化芸術会議 2020」

京都文化芸術プログラム 2020 策定に当たり、平成 32 年（2020 年）に向けて京都が目指すべき文化芸術の姿について、市民の皆様からのアイデアを募集するワークショップ「京都文化芸術会議 2020」を開催し、約 50 名が参加。「文化を通じて世界の人々と京都で交流する」、「伝統文化を身近に感じる」等をテーマに活発な議論が行われました。

（場所：京都市美術館講演室）

